

重要文化財【桑野遺跡出土品】冬季特別展示解説

－ 複数対・滑石材品を中心に －

あわら市郷土歴史資料館
特別展示室

平成 24 年 9 月 6 日、玦状耳飾などの石製装身具類、合計 85 点（他に附として水晶原石 1 点加わる）で構成される「福井県桑野遺跡出土品」が、国の〔重要文化財／考古資料〕に指定されました。その多くは原位置に近い状態で出土、環日本海域に於ける縄文文化の特質と交流を解明する資料として高く評価されました。

而も、単独検出例の多寡が指摘されていた玦状品の、素材・製作技法を対で揃えられた事例の多さが取分け着目され、剩え 2 対、3 対と、対品が近接し検出された様は、本邦に類例が殆どなく特筆されます。その中でも、対構成の略半数を占める滑石材検出の在り方は実に多彩です。

そこで、今回の冬季特別展示では、

【滑石材・軟玉様材を用いた複数対構成の諸様相】 をテーマに、

一般には〔通例的素材〕と看做されている <滑石材>品 が、

桑野遺跡では、様々に配置・検出された態様を検討することにします。

民俗例からの援用、頭位付近にあった検出例の類推に因り、所謂「玦状耳飾」と称されてきた品の用途・用法は、果たして“耳飾”単一のものであったのか。

そして、遙か原始に暮らした人達が、各種石製装身具に対し如何なる思いを寄せながら、厳しい自然と向き合い、様々な日々を暮らしていたのでしょうか。

《滑石材》諸例

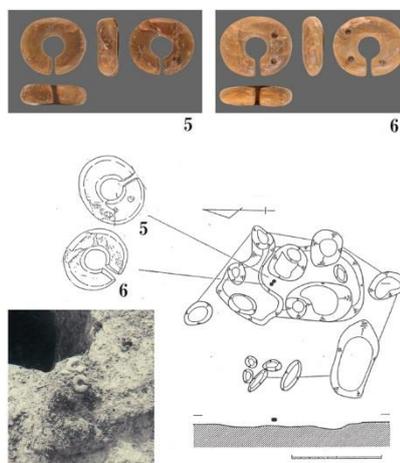
一般に内国産と看做される素材である【滑石】が用いられる例は、予てその多数を指摘される単独例のみならず、1 対・複数対と、多岐に亘る。

【1 対並置例】

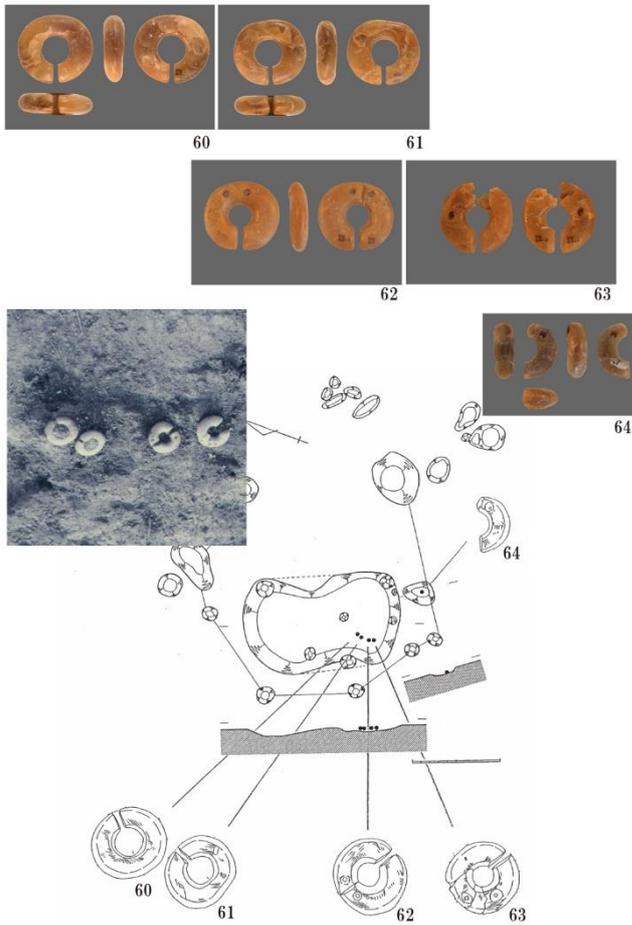
3 号（第 1 図）：南北に長い隅丸方形土壇（残・114 cm × 88 cm）の、北側切断部付近主軸線上に、滑石材の玦状完品 1 対が近接し並置されていた。

対品の切目部方位は、稍相反するも両者とも略土壇中央部を向き、埋葬体位が仰向を想定するならば、右耳位置の品が若干優位で、この品は折損部両脇に補修孔を有する。

周回ピットは、都合 7 穴で構成、径 184 cm の範囲に巡り、北西方向に開口する。凡そ体軸に並行するものと推定される。



第 1 図 3 号土壇



第2図 21・22号土壙

【2対並置例】

21・22号(第2図): 21号土壙は元来隅丸方形(178 cm×120 cm)を呈し、南西隅の底面付近から滑石材の玦状完品2対4点が並列し出土した。

2対4点の切目部方位は、北側の対品は北方を、南側の対品は南方と、その対品毎に近接、その方位は等しく、対品相互には相反、対品相互の間隔は約6~7 cmを測る。

北側から検出された対品は、双方とも完品であったが、南側にあった対品は共に破損していた。

土壙周囲には径290 cm、10穴構成のピット列が周回、略北東に開口、2対の品が検出されたのは、開口部正反奥の位置にある。土壙長軸から稍右傾しており、対品間に頭骨を、体軸を想定するならば、土壙長軸と体軸は直交気味となる。

周回ピット列の中で、南方に位置する22号ピット底面からは、滑石材

ではあるが対品とは色調が異なり、端部正反位置に穿孔を有する欠品1点も検出されている。

<出展品>

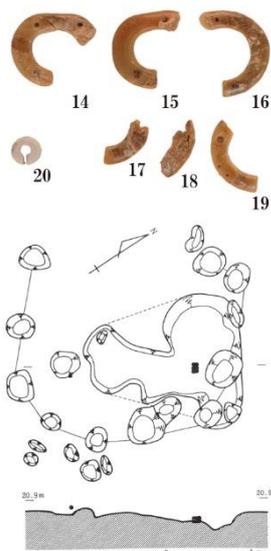
- ・3号 玦状耳飾 2 [滑石材完品1対]
- ・21号 玦状耳飾 4 [滑石材完品1対・写真・図展示1対]
- 22号 玦状耳飾 1 [滑石材欠品1]

【破損品一括例】

6・7号(第3図): 6号土壙は南西に先細る形状(176 cm×154 cm)を呈し、央部稍北東に滑石材の玦状欠品6点を検出した。

また、先細部の先方にある7号ピット(径34~36 cm)の肩部から、白色材の小型玦状完品1点も出土している。

こうした状況から、北東方向に広がる長楕円形土壙(218 cm規模)の存在が推測されよう。



第3図 6・7号土壙

滑石材塊状欠品 6 点のうち、3 点は半分以上が残存し、各々に片方の切目端部も存することからそれぞれ別個体と考えられる。残り 3 点のうち、2 点は切目端部片、1 点は切目部正反付近の断片と推定され、都合 4 個体以上と数えられよう。

その若干細身にして平面形が横長を呈する形態は神奈川県上浜田遺跡、取分け S K 5 資料に近似、帰属時期も略等しいように思料される。

7 号ピットから出土した白色材小型塊状完品の形状は、腰高にして分厚い。

周回ピットは、径 252 cm の 12 穴構成と目されるが、土壙内ピットとの峻別も併せ、明らかならざる部分も残存する。その開口部は北西にあり、土壙軸線に並ぶ。

< 出展品 >

- ・ 6 号 塊状耳飾 6 [滑石材欠品 6]
- 7 号 塊状耳飾 1 [白色材小型完品 1]

【単独例】

9 号 (第 4 図) : 北側先端が先細の長楕円形土壙 (174 cm × 64 cm) で、中央にはピットが構築、その肩上位から滑石材の塊状完品 1 点が出土した。

本土壙は、カゴ田類材対品を検出した 8 号、腕輪状品が出土した 10 号に接し、周回ピットは 8 穴連結の単独周回とも、3 基を共有する、径 362 cm、11 穴(+2)構成とも観察され、この場合は東南方向に開放する。

共有なれば、合葬の可能性が現出するやもしれない。

15 号 (第 5 図・左) : 東方を 14 号に切断された長楕円形土壙 (残 97 cm × 116 cm) で、本来は長さ 240 cm 程度の規模を持っていたと推測される。

滑石材の塊状完品 1 点が、西側肩の上端から 50 cm 中央よりの略長軸線上に、底面の直上から単独で出土した。

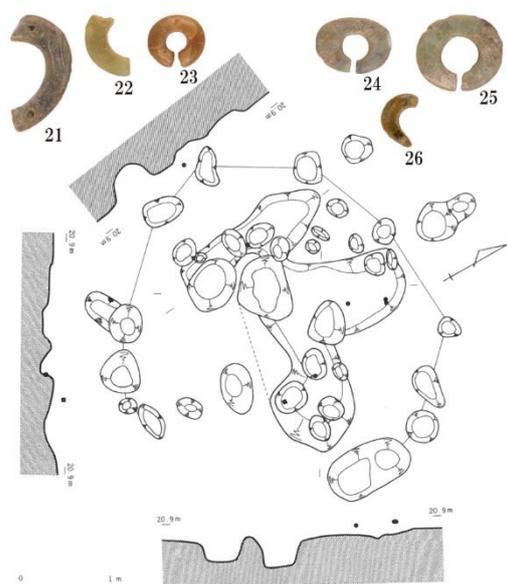
土壙の周囲には、径 258 cm の周回列を予想することも可能ではあるが、判然とはしない。

《異材混合》例

滑石材の塊状品が単一に包含される例が多数を占めるが、なかには別材と共伴する場合もある。

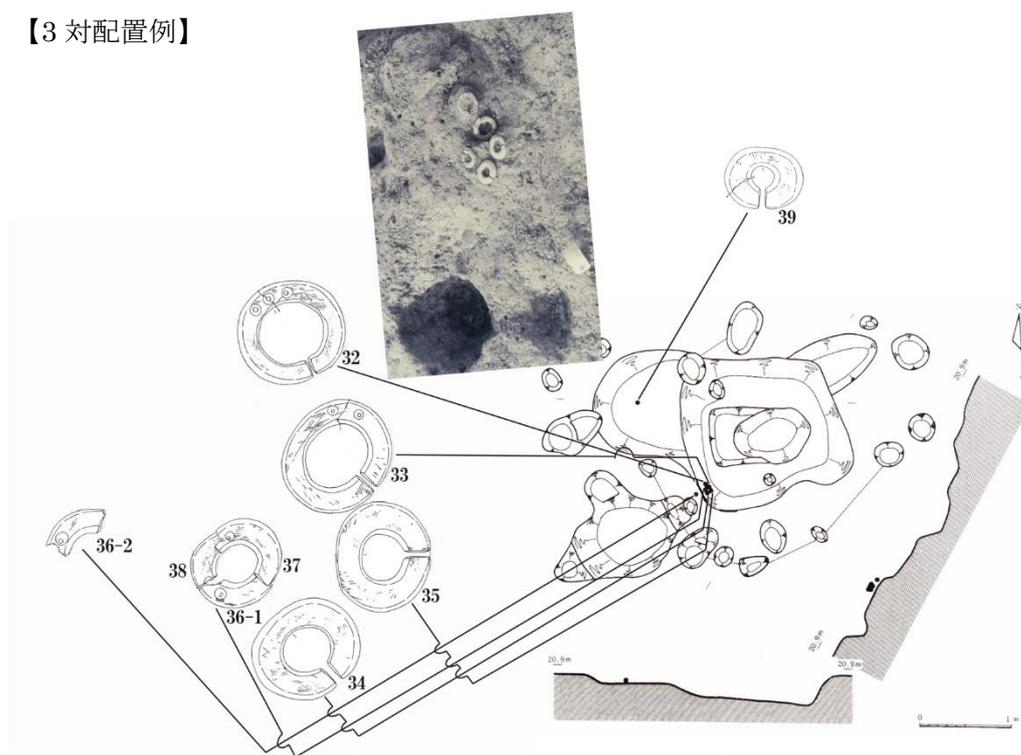
4・8 号はカゴ田類材の対品に滑石材欠品が、5 号では小型対品に鯉節形垂飾が、16 号に小型対品と異形石器が、13 号には滑石材対品と異形石器が組み合う。

将又、24 号には 3 点とも白色材なれど、形状の異なる対品と管玉の例もある。



第 4 図 8・9・10 号土壙

【3 対配置例】



第5図 左・15号土壌 右・14号土壌

14号(第5図・右)：隅丸方形土壌(160 cm×175 cm)の南西肩部から滑石材块状品2対、軟玉様1対が2列に並置されていた。

列の南端には滑石材対品が並置され、2点は略同型であるが東側の品が僅かに重い。

東側滑石材品の北方に軟玉様対品が縦位に配置される。最も北方の品は幅狭で計量であり、切目部正反の位置に両脇の補修孔と目される穿孔より小さな穴も穿たれる。

西側滑石材品北方には、色調の異なる滑石材品が破損した状況で検出されている。

対品相互に異材が用いられたのは、20号に白色材と滑石材が並置された例が認められ、遺構内共伴ではないものの肉厚の滑石材品と白色材が出土した群馬県下鎌田遺跡も同様とされよう。周回ピットは、径250 cmの8穴(+3)構成され、開口部は北方に想定される。

桑野遺跡に軟玉様の品は18号にも認められ、列島に類例の乏しい筥状品を伴っている。

< 出展品 >

- ・ 9号 块状耳飾 1 [滑石材完品 1] ・ 15号 块状耳飾 1 [滑石材完品 1]
- ・ 14号 块状耳飾 6 [滑石材完品 1対・欠品 1対、軟玉様完品 1対]

【滑石材・軟玉様材を用いた複数対構成の諸様相】

重要文化財【桑野遺跡出土品】冬季特別展示 — 複数対・滑石材品を中心に —

展示期間 : 平成28年1月8日(金曜)～3月21日(祝日)

あわら市郷土歴史資料館

919-0632 あわら市春宮二丁目14-1 金津本陣 IKOSSA2階

Tel : 0776-73-5158 Fax : 0776-73-1038